

大崎スーパースタジアム・ 武道城構想の実現は可能か

平成十八年度達成
を目標とする計画
立案

町長

町長は選挙公約としてスーパースタジアム・武道城の施設整備を約束し、その実現に向けて職員有志によるプロジェクトチームをつくり、具体的調査研究の基本計画実現に向けて努力することのであったが、調査研究はできたのか。計画案として場所、予算、規模、実施時期など具体的構想について答弁を求める。



後 迫 哲 矢 議 員

まず、施設の内容としては、メイングラウンドの陸上競技場、野球場として活用できる多目的グラウンドがスーパースタジアムとしての施設である。それにトレーニング施設としての機能を備えた武道城の構想である。施設整備の予定地として、「あ

大崎町活性化のため、職員十七名によるプロジェクトチームを昨年四月に立ち上げ、一年間かけて調査研究に取り組み、その成果をまとめた報告書の提案を受けている。



串良町の陸上競技場

すばる大崎」から「総合体育館」、くいの松原周辺一体を候補地として考えている。整備にかかる予算は、陸上競技場が四億から七億円、野球場が夜間照明なしで三億円、武道城が六億から十億円を試算している。整備のスケジュールは、平成十四

年度は基本構想策定期間、平成十五年度基本計画策定期間、平成十六年度用地取得、実施設計、造成工事期間、平成十七年度着手、平成十八年度を完成目標年度とした計画案である。

大崎町過疎地域
自立促進計画に
取り上げる考えは

後 迫 議員

この計画案を実現するには、本町の町づくり計画の中に実施計画として、大崎町過疎地域自立促進計画に取り上げる必要があるが、その計画は何年度に取り上げるか。

最重要施策として
取り上げる

町 長

現在の大崎町過疎地域

自立促進計画は、平成十六年度までとなっているので、平成十七年度以降の継続事業として取り上げ、最重要施策として国・県の補助事業など積極的活用をはかれるよう過疎計画に取り上げていく。

市町村合併を仮定
した場合どう対応
するのか

後 迫 議員

町長の構想は、町民にすばらしい夢と希望を与える町づくり計画になっているが、平成十七年一月一日の合併を目標とした曾於南部市町村合併が進められている。このことを仮定した場合どのように対処するのか。

新町づくり計画の
中に反映

町 長

現在、曾於南部合併協議会で平成十七年一月一日の合併を目標に協議が進められているが、仮にこのスケジュールどおり合併が成立するならば、合併前に大崎スーパースタジアム及び大崎武道城を完成させ、町民の皆様にご利用してもらうことは時間的に無理だと考える。しかし、仮に合併しても、「この事業は達成したい重要なプロジェクト」と位置づけているので、現在、合併協議会で検討されている「新町づくり計画」の中で反映させていきたいと考えている。具体的には、「新町づくり計画」の「第四章新まち建設の基本方針」の「第一節基本方針策定にあたって踏まえるべき事項」等で、大崎町の重要プロジェクトとして取り上げていく考えである。